

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	経営戦略研究科後期課程
大項目	11 教員・教員組織
中項目	
小項目	11.0.1 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。
要素	教員に求める能力・資質等の明確化 教員構成の明確化 教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化
小項目	11.0.2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
要素	編制方針に沿った教員組織の整備 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備 研究科担当教員の資格の明確化と適正配置(院・専院)
小項目	11.0.3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
要素	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化 規程等に従った適切な教員人事
小項目	11.0.4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
要素	教員の教育研究活動等の評価の実施 ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 教員組織のありようについて、教員間でのコンセンサスを形成し、共有する	→関連する会議の開催回数	A
2. 教員組織の整備状況についての見直しと、その内容に沿った対応を行う	→関連する会議の開催回数と改善に向けた取り組みの実践数	A
3. 教員の任用・採用に関するプロセスを透明化し、教員組織の現状を絶えず改善するように留意する	→任用・昇任プロセスが内規等に準拠して実施されている割合	A
4. FDに加え、教員相互間の教育研究に関する情報の共有を推進する	→情報共有のために開催される会議の開催回数	A

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

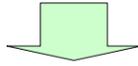
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆	小項目 11.0.1	(方針) 理論と実務を融合する研究の推進を企図して、それに相応しい教員体制・組織を構築する。 (現状説明) 博士課程後期課程の指導教員、補佐教員の任用・昇任については、学内の規定に遵守して行われている。また、学生の研究指導における分担は、指導教員と補佐教員の間で明確化されており、両者の連携で適切な指導が行われている。
☆	小項目 11.0.2	研究科として不可欠な研究指導科目を設置し、入学希望の多い科目については人事の補強を行うなどして、適切な運用を行っている。
☆	小項目 11.0.3	本学の大学院・専門職大学院の教員任用の取り決めに基づいて、厳格に執行されている。
☆	小項目 11.0.4	指導教員間で、補佐教員も一緒に、教授方法の意見交換会などを積極的に行っている。
☆	その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目 11.0.1	
小項目 11.0.2	
★ 小項目 11.0.3	
小項目 11.0.4	
その他	



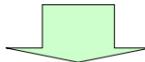
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目 11.0.1	
小項目 11.0.2	
★ 小項目 11.0.3	
小項目 11.0.4	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目 11.0.1	入学志望学生の研究テーマの拡がりに比して、博士課程教員が少ない。
小項目 11.0.2	
★ 小項目 11.0.3	
小項目 11.0.4	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目 11.0.1	博士課程教員の陣容強化
小項目 11.0.2	
★ 小項目 11.0.3	
小項目 11.0.4	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他 (自由記述)	
-----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○内部評価の会議回数の進捗評価や指導教員、補佐教員の連携に関する指摘など、研究科内のコミュニケーションが図られていることが推察されますが、その質的側面の評価を具体化されることが期待されます。

【学内委員】

○目標に対して進捗している状況であると判断されます。

○目標の設定が単年度であったり、目標というよりは方針であるので、中期的な目標を新たに設定されることが望まれます。

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ ダブルカウント問題に解決の目処が立ち、本専攻では平成23年度に研究指導教員と研究指導補佐教員への相当数教員（専門職学位課程に所属する）の任用を計画している。これに際し本課程では、任用の基準作りを行うとともに、教員資格審査・任用の可否についての投票制度の確立などを行った。しかし、ダブルカウント問題はまた文部科学省においても根本的に問題解決されたわけではないので、引き続きこうした状況を加味しながら、より適切な教員・教員組織のあり方について、専攻全体で議論を重ねてゆく計画である。

V. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

11.0.0.S1	専任教員一人あたりの在籍学生数
11.0.0.S2	開設授業科目における専任比率
11.0.0.S3	専任教員の年齢別構成
11.0.0.S4	教員一人当たりの授業時間数
11.0.0.S5	本学出身の専任教員の構成比率
11.0.0.S6	海外の大学で学位を取得した専任教員の比率
11.0.0.S7	教員組織における実務家教員の占める割合(専門職大学院に限定)
11.0.0.S8	教員組織における女性教員の占める割合
11.0.0.S9	任期制教員(契約教員)の採用数
11.0.0.S10	実験実習指導補佐、教務補佐、授業補佐の採用数
11.0.0.S11	ティーチング・アシスタント(TA)の採用数
11.0.0.S12	契約助手の採用数
11.0.0.S13	実験助手の採用数
11.0.0.S14	リサーチ・アシスタント(RA)の採用数
11.0.0.S15	公募制による採用教員の数

<個別的な指標>
